

金融システムを破壊し、経済を破綻させた。新技術に基づく新政治経済によって失業している人たちを中心に人種偏見、女性蔑視、移民排斥を信条とするグループが台頭し、それを扇動するトランプ大統領が2016年に誕生したのだった。

当初の富裕層右派、大企業、リバタリアンはそれなりに理性的だったが、それに同調した新しい政治的勢力には、宗教や銃、陰謀説の狂信的な信者、科学を否定する者など理性が欠如している者たちだった。そして、彼らに支持されたトランプ大統領は、コロナに奪われる国民の命を救わず、経済活動再開を優先し、日々の感染者は11月半ばで15万人。

今後80年代のパラダイムシフトを維持し、大半の国民の生活苦が継続するのか。それとも団結し、政府を变身させ、米国をよりよくすることができるのか。

大統領選挙の結果を見ると、国はまったく2分している。歴史は数十年のサイクルで変化すると言われるが、連邦政府の信用を復活、大企業と富豪対従業員と一般市民の力関係をリセットするなどの努力が必要だ。実際、国民の過半数は経済政策的には中道左派だが、極右の共和党と中道左派の民主党の二者択一を迫られている。不平等問題自体より、不平等が公平であれば受け入れているのだ。


ギグエコノミーのパートタイマーの増加を許すなど弱体化した労組だが、最近ではストも復活。ブルカラーの同僚や労組を見捨ててきたジャーナリストも、近年になってデジタル・メディアの記者たちが労組を作り始め、NYタイムズなどの主要紙もやっと労組ができた。若い世代は人種や性差別に否定的で平等性を重視し、気候変動、環境保護にも意識が高い。

彼らの手で徐々により平等な社会作りができるようになることを期待したい。

(池原麻理子=在ワシントン) N


編集部が選んだ今月の新刊

『すぐよくわかる 絵解き広報』
山見 博康著
同友館(本体2,500円+税)




リモート時代の「守り・攻める」広報の基本とは何か。広報の本質と、リモート時代の広報に必須な知識・スキルの磨き方、実践的なノウハウを、イラストや図解を使ってわかりやすく解説。主要組織・メディアの幹部112人からのアドバイスも収録。

『日本を壊した霞が関の弱い人たち』
一新・官僚の責任—
古賀 茂明著
集英社(本体1,600円+税)




なぜ「官邸官僚」発案のコロナ対策は失敗したのか。なぜ官僚は政治家に付度するのか。官僚の仕事ぶり、言動には山ほどの疑問符がつく。安倍政権で生まれ、菅政権に引き継がれた官僚の新しい生態を多角的に解明。

『山と獣と肉と皮』
繁庭 あずさ著
亜紀書房(本体1,600円+税)



山に入るたびに自然の命を殺して、食べて、生きることとは。長崎と佐賀の里山で狩猟者と過ごした時間、獣の死と皮革にまつわる「穢れ」の考察。野生肉をめぐる思索と母として、写真家、冒険者としての記録である。

『絶対に挫折しない日本史』
古市 憲寿著
新潮社(本体800円+税)



大きな流れがスッキリわかる、画期的な日本史入門である。思い切って固有名詞を減らして、流れを俯瞰で捉えると、日本史はここまでわかりやすくて面白くなるものなのか。歴史学者ではない著者だからこそ書けた、全く新しい「ニッポン全史」。